

ツキノワグマによる人身事故防止のために

春先から初夏にかけて、ハイキングや山菜採りなどで山に入るとクマとの出会いがしらの事故が発生することがあります。
山に入るときは、次のことに充分ご注意ください。

山に入るときに注意事項

音の出るものを身につける

〔クマに人の存在を知らせる〕

- ・ 鈴やラジオを携帯する
- ・ 複数人で話をしながら行動する

山野にゴミを捨てない

〔クマを執着させない〕

- ・ 弁当の残りや飲料水の容器は必ず持ち帰る

周囲の状況に気を払う

- ・ 山林内では周囲の状況にも充分注意する
(山菜採りなど夢中になりがち)

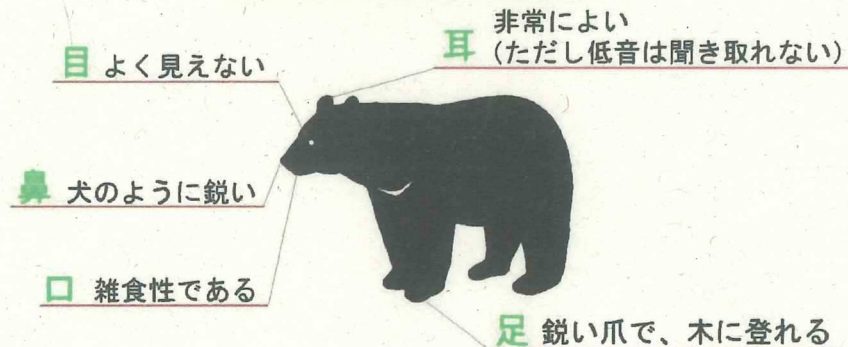
子グマにも注意

- ・ 子グマでも大変危険
- ・ 母グマは本能的に子グマを守るため襲ってくることもある

それでも出会ってしまったときは

- ・ クマを驚かせない
- ・ クマに背を向けず、後ずさりして立ち去る

クマの生態特性



- ◆ クマは嗅覚、聴覚が特に発達している。
- ◆ 子グマがいれば、近くに母グマがいる可能性が高い。
- ◆ 大柄で鈍そうに見えるが、山の中では人間よりも俊敏で、木に登ることもできる。
- ◆ 夜明け前、夕暮れ時など薄暗い時間帯に行動することが多い。

季節ごとの行動

春：冬眠から目覚める（4月上旬頃）

山菜などを食べる（5月頃）

夏：繁殖（交尾）をする（6～7月頃）

※このころクマの行動域が広がる

秋：冬眠準備のため木の実・果樹などの食べ物を探し回る

※食べ物を求めて人里まで降りてくることあり（柿・栗等）

冬：穴の空いた木や、木の根本に穴を掘り、冬眠する

※一部のメスは、冬眠中に1～2頭出産する

※ハイキングや
山菜採りなどで
山に入った人が
出会う危険性大

クマを目撃した時は、最寄りの市町まで連絡願います。

中央市役所
中央市役所

産業部

北部事務所

農業振興課

一宮産業振興係

兵庫県環境部自然・鳥獣共生課

0790-63-3109

0790-72-2000



冬眠におけてたくさん食べます。
充分に栄養をとることができた
メスだけが妊娠します。



爪あと



クマ棚

繁殖期になるとオスの
行動範囲が広がります。

冬眠

出産

12～4月頃冬眠します。
冬眠中に出産します。

冬眠中は何も食べません。

妊娠

ブナ、コナラ、クリ
などの堅果類、
ヤマブドウ、ミズキ、
クルミ

栄養
蓄積

冬

秋

春

夏

ブナなどの新芽、
チシマザサ、フキ、
セリなどの草本

体力
回復

赤ちゃんグマ



親子グマ

繁殖

子グマは1歳半頃になるまで、
母グマと一緒にいます。

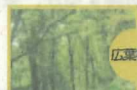


ドングリとクマの関係

ドングリは動物にとって、栄養価の高い良質な食物です。
ドングリなどの木の実「たくさん成る年（豊作年）」と
「あまり成らない年（凶作年）」があります。凶作年にク
マの人里への出没が増えます。



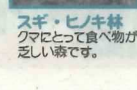
※ドングリとはブナ、ミズナラ、コナラなどの実の総称です。



広葉樹林



コナラ・ブナ林など
クマにとって食べ物が
豊富な森です。



スギ・ヒノキ林
クマにとって食べ物が
乏しい森です。

人里
など

ドングリが凶作の年の秋には、クマが人里の
カキやゴミなどに引き寄せられ、多く出没する
ことがあります。

豊作の年には、人里での目撃は少なくなります。
ただ、初夏は繁殖期のため、行動範囲が
広がり、目撃が増えることがあります。



兵庫県
森林動物研究センター
Wildlife Management Research Center, Hyogo

〒659-3942 丹波市青柳町沢野940
TEL: 0795-80-5500 FAX: 0795-80-5506 HP: <http://www.wmri-hyogo.jp/>



森林動物研究センターでは、クマの
生態調査や被害に強い集落づくりの
指導・助言を行っています。

吉原を食んだ熊を捕まえています。[21 農] 02-017A4

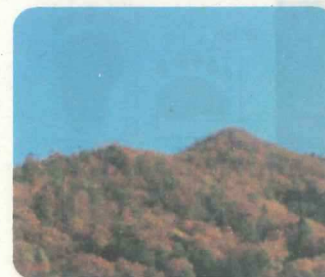


知れば共存が見えてくる

兵庫県の ツキノワグマ



生息している地域



木の実やドングリなどがある
広葉樹の森に生息しています。



ヒグマ

ツキノワグマ

四国

九州

絶滅が心配され
ています。

絶滅したと言われ
ています。

北海道には「ヒグマ」が、
本州には「ツキノワグマ」が
すんでいます。

波路島に
はいません

兵庫県では北部に2つの生息地がありま
す。円山川をはさんで分布域が分断化し、
絶滅が心配されていました。近年、生息
数は回復傾向にありますが、遺伝的な多
様性は低いことが分かっています。



体の特徴

体重：オスは 60～150kg メスは 40～80kg
体長：110～130cm 体高：50～60cm





被害状況と痕跡

カキ、クリ、ナシ、ブドウ、リンゴなどの果樹や、カボチャやスイカなどの野菜を食害することがあります。牛舎の餌や養蜂巣箱、ニワトリ、倉庫に保管してある食べ物なども被害にあうことがあります。また、樹上にクマ棚を作ったり、樹皮にツメ跡を残します。糞や足跡を残すこともあります。

被害状況



リンゴ食害



ニワトリ食害



牛舎侵入



養蜂巣箱破壊

痕跡



クマ棚



糞



ツメ跡



成獣オスの足跡



生活史と出沒の関係

生活史

クマの行動が活発になるのは、初夏の交尾期と秋の飽食期です。交尾期は特にオスが行動圏を広げるため、通常クマが出沒しないような地域にまで移動することがあります。

飽食期は、冬眠に備え食欲が増すため、食べ物が大量に得られる場所に長時間滞在し食べ続けます。

生活史	冬眠				交尾期				飽食期				冬眠
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
オス													
雌メス													
子連れメス													

メスを求めて行動圏を広げる

1 出産 (1~2頭) 授乳

子連れ期

出産したメスは発情しない

子どもと同一の冬眠穴に入る

子連れ期

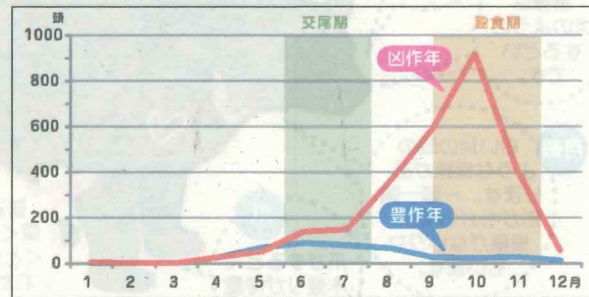
子別れと発情

1 妊娠

山の実りと出沒

クマが好むドングリや果実が凶作の年には、人里のカキや生ゴミなどに誘引され、夏以降に大量に出沒することがあります。

豊作の年には、人里での目撃はほとんどなくなります。ただし、初夏は交尾のため、行動範囲が広がり目撃が増える傾向にあります。



被害対策

出会わない！呼び寄せない！

ばったり出会わないために

① 山林に行くときは音の出るものを携帯しましょう

山や森林付近の農地に出かけるとき、あるいは夜間に外出するときは、鈴やラジオなど音の出るものを身に付けましょう。とくに雨の日や川沿いは、人間の臭いや物音がクマに伝わりにくいので、大きな音を出しましょう。



② 人里でも夕方から朝までの外出は注意しましょう

クマは夕方から早朝にかけて、人里に出没する可能性が高くなります。この時間帯は、カキやクリの木の近くなど、クマがいそうな所に近づかないでください。

悪いクマにさせないために

集落への出沒や、農作物被害を放っておくと、クマの行動がエスカレートして、悪いクマになっていきます。

① 誘引物の除去

- ・ゴミを野外に置かないようにしましょう
ゴミ(とくに生ゴミ)はクマを誘引します。屋外に置かないようにしましょう。また、田畑への残飯まき、収穫しない野菜の放置も厳禁です。
- ・食料は、屋内に収納しましょう
クマは臭いにとっても敏感です。屋外や侵入できる納屋などにある食料に気づいて、食べにくる恐れがあります。果物、穀物、ペットフードなどは要注意です。
- ・不要なカキやクリの木は伐採しましょう
収穫しない不要なカキやクリの木は、出来るだけ伐採しましょう。伐採が困難な場合は、防護するか、果実を早めに取り除きましょう。



カキの木の伐採

② 環境整備

住居や通路周辺にクマがひそみやすいヤブがある場合は、刈り取って見通しをよくしましょう。



③ 防護

トタン巻き

クマが登るカキやクリで不要なものは出来るだけ伐採しましょう。切れない木には、幹にトタンを巻きつけ、クマが登れないように防護します。



ポイント
・地上1~3mをカバー
・トタンの張りは縦向き

電気柵

果樹園や養蜂巣箱は、電気柵で守りましょう。クマの侵入ルートがわかっていない場合は、周辺のヤブを刈り払い、侵入ルートを横切るように電気柵を張ります。



ポイント
・一段目は20cm程度
・漏電防止の為、要草刈